

U.S. Indicators

発表日: 2022年12月6日(火)

米国 11 月 ISM 非製造業は上昇したが減速基調持続

～供給制約やインフレ圧力の緩和傾向も持続～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

22年11月のISM非製造業景気指数(総合、季節調整値)は、56.5(前月54.4)と市場予想の53.5への低下に反して前月比+2.1%p上昇し、高い水準を維持した。これを受け、FF金利先物は再び5%程度のターミナルレートを織り込んだ。

入荷遅延が供給制約の緩和によって大幅に低下したほか、新規受注が海外需要の縮小で小幅低下した。一方、需要の強さを映じて活動指数、雇用指数が上昇し、全体を押し上げ、依然として米景気の拡大を示す水準を維持している。もっとも、米国の非製造業部門は、インフレ高進、金利急騰のほか、人手不足、生産能力不足などによる供給制約など多くの逆風を受け減速基調を辿っている。そのような中、供給制約やインフレ圧力の緩和が続いていることが示された。

11月は、18業種中13業種の拡大に減少した(10月:16業種の拡大)。拡大した業種は、強い順に不動産業、鉱業、農林水産業、その他サービス、建設業、医療・社会支援、公的部門、小売業、専門・科学・技術サービス、宿泊・飲食サービス、公益、運輸・倉庫、教育サービスと続いた(下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)。一方、縮小した業種は、企業向けサービス、卸売業、情報産業の3業種(10月2業種)となった。芸術・娯楽・レクリエーション、金融・保険は変わらず。

企業からの報告で、需要の拡大が続いていることや供給制約が残存していることが指摘された。農林水産業は事業が順調で新型コロナウイルスのパンデミック前の水準を回復したと報告したほか、建設業は全般的な事業は前月から変わらないものの、コストが増加するなか新事業の需要は強いと指摘、鉱業はエネルギーサービスの需要が当面非常に強いと報告した。

また、医療・社会支援は、人材の確保によって手術件数を増加させられたほか、RSV(呼吸器合胞体ウイルス)とインフルエンザの感染が増加しているが、事業活動は2022年末まで好調を維持すると予想されると報告した。さらに、専門・科学・技術サービスは求人数が減少し続けているが、優秀な人材への需要は依然として高く人材がかなり不足しているため、成長の機会はまだあると指摘した。

一方、小売業は前月よりも人員削減や調達コストの低下が進んだほか、サプライチェーン問題の改善によって事業が安定したことを報告した。卸売業は、取引量が前年比で大幅に増加しているが、前月比では横ばいになったと指摘した。

サプライチェーンの問題では、教育サービスが供給不足や配達遅延の継続を報告したほか、医療・社会支援は、一部で改善も医療器具の不足が続いたこと、その他サービスはリードタイムが長期化したままであること、公益は地方、地域、および全国的な供給の制約を受けていることを指摘した。また、運輸・倉庫は人手不足が続いているほか、依然通常よりもリードタイムが長く、月次の配達スケジュールに影響していると説明した。

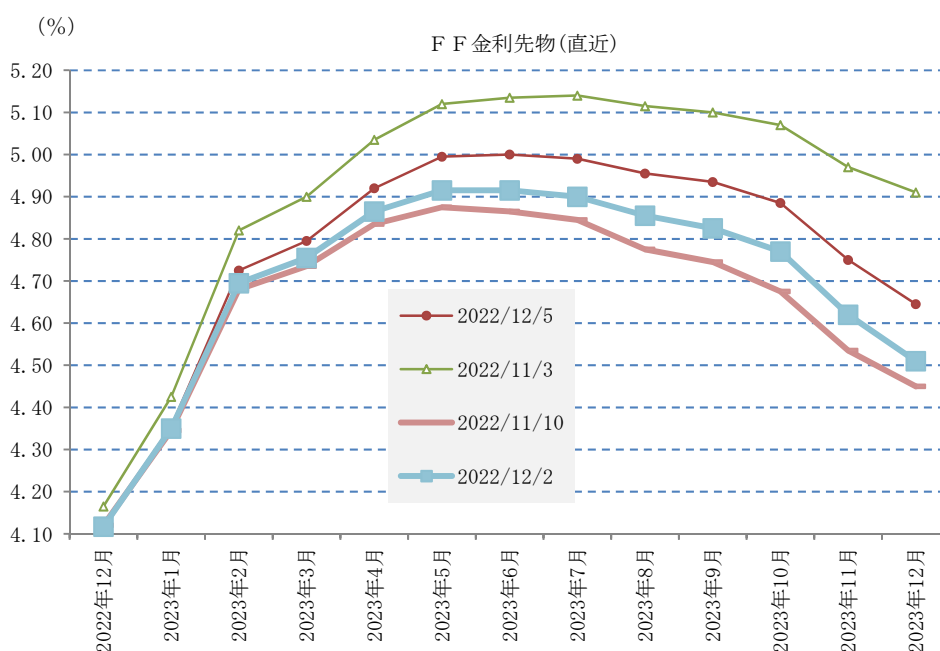
非製造業総合指数の構成項目では、入荷遅延が53.8(前月56.2、前月比▲2.4%p)、新規受注が

56.0（前月 56.5、前月比▲0.5% p）と低下した一方、活動指数が 64.7（前月 55.7、前月比+9.0% p）、雇用が 51.5（前月 49.1、前月比+2.4% p）と上昇した。新規受注、活動指数は高い水準を維持しており、需要が依然強いことを示している。総合指数への寄与度では、入荷遅延が前月比▲0.60% p、新規受注が前月比▲0.13% p の押し下げ寄与となった一方、活動指数が前月比+2.25% p、雇用が前月比+0.60% p の押し上げ寄与となった。

サブ項目では、新規輸出受注が 38.7（前月 47.7、前月比▲9.3% p）と低下し、米国サービス輸出の減少幅拡大を示している。一方、輸入は 59.5（前月 50.4、前月比+9.1% p）と大幅上昇しており、サービス輸入の大幅増を示した。

インフレ環境では、仕入価格指数が 70.0（前月 70.7）と低下しインフレ圧力の緩和継続が示されたものの、労働コスト、鉄鋼製品、電気部品等の上昇によって高い水準にとどまっており、インフレ圧力が依然強いことを示した。

米国経済全体の景気動向を示す「ISM総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数の合成）」は、11月に 55.8（10月 54.0）と前月比 1.8% p 上昇した。ただし、10、11月では、製造業が 49.6 と 7-9月期の 52.2 から低下したほか、非製造業が 55.5 と 7-9月期の 56. から低下したことで、ISM総合景気指数は 54.9 と 7-9月期の 56.3 から小幅低下しており、10-12月期の米国景気の減速傾向の持続を示した。

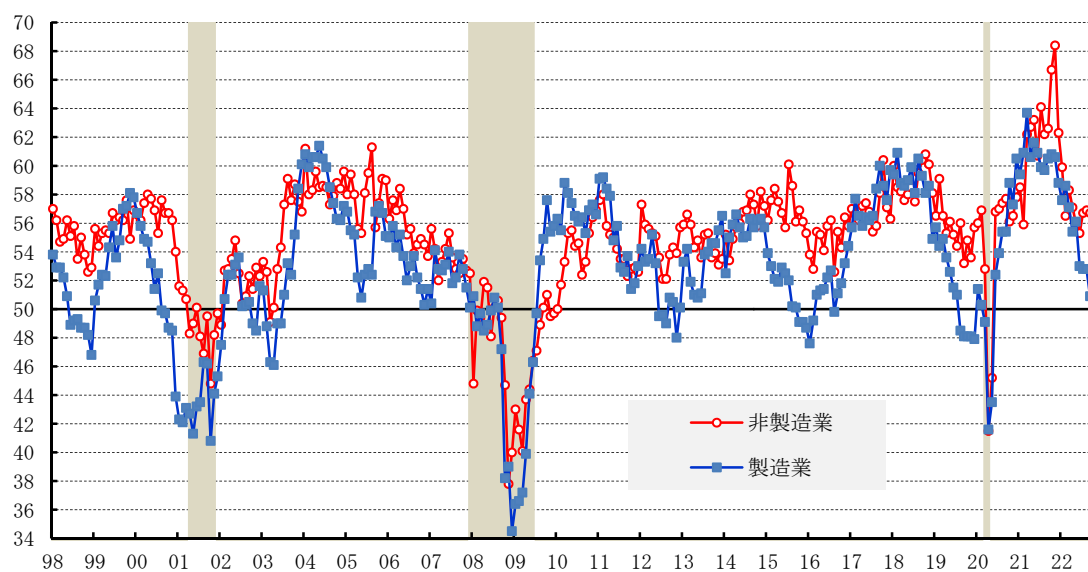


ISM非製造業景気指数

	総合指数	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	在庫変動
21/11	68.4	72.5	68.3	57.0	75.7	65.9	83.0	57.9	48.2
21/12	62.3	68.3	62.1	54.7	63.9	62.3	83.9	61.5	46.7
22/01	59.9	59.9	61.7	52.3	65.7	57.4	82.3	45.9	49.4
22/02	56.5	55.1	56.1	48.5	66.2	64.2	83.1	53.0	50.8
22/03	58.3	55.5	60.1	54.0	63.4	64.5	83.8	61.0	51.7
22/04	57.1	59.1	54.6	49.5	65.1	59.4	84.6	58.1	52.3
22/05	55.9	54.5	57.6	50.2	61.3	52.0	82.1	60.9	51.0
22/06	55.3	56.1	55.6	47.4	61.9	60.5	80.1	57.5	47.5
22/07	56.7	59.9	59.9	49.1	57.8	58.3	72.3	59.5	45.0
22/08	56.9	60.9	61.8	50.2	54.5	53.9	71.5	61.9	46.2
22/09	56.7	59.1	60.6	53.0	53.9	52.5	68.7	65.1	44.1
22/10	54.4	55.7	56.5	49.1	56.2	52.2	70.7	47.7	47.2
22/11	56.5	64.7	56.0	51.5	53.8	51.8	70.0	38.4	47.9

(出所) ISM

ISM景気指数の推移



(出所) ISM (注) シェード一部は景気後退期

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

